

宮北小学校 学校だより 12月 ふじさと

みとめあう やるきのある きたえあう たのしい学校



11月26日、27日に6年生の修学旅行を引率して奈良、京都に行ってきました。2日とも晴天に恵まれ、紅葉も一番美しい時期で最高の修学旅行となりました。

さて、京都での宿泊は、西本願寺近くの旅館でした。西本願寺周辺には、僧侶のための仏具屋さんが並んでいます。大通りでバスを降りて、旅館までは、仏教に関係にある建物も多く、その一角の看板に書かれた

「経験は最良の師である」

という言葉が目に飛び込んできました。

いろいろな解釈があるようですが、「経験はこれから歩むうえで大切な要素になる。経験を生かし取り組むことで、困難も乗り越えられる」ということでしょうか。私は、和歌山姉妹都市親善協会という会で、中高生の姉妹都市交流に関わっています。ある年、アメリカから帰国した生徒が、「これから辛いことがあっても、この経験を糧にして頑張っていける。」と言ったことが印象的でした。6年生にとっても、修学旅行での経験が人生の糧のひとつになりますように。

さて、新しい学習指導要領では、より体験的で社会とつながる学習が求められています。様々な経験を通して、子供たちが学び、成長していく姿を目の当たりにすることは、本当にうれしいことです。11月は学校開放月間で様々な体験をし、5年生は紀北合宿、6年生は修学旅行を経験してひと回りもふた回りも大きく成長したように感じます。

私も、今年はこの宮北小学校で新しい経験をたくさんすることができました。私たち大人にも新たな挑戦は人生のエッセンスになるように思います。 (学校長 道本美月)



開放月間中に学校の様子、子供たちの様子をみていただきましてありがとうございました。学校に新しい風を吹かせること、学校を拓くことにこれからも努めます。



校長室「ほっとプレイス」通信

声を響かせるって素敵

11月以降、文化的な行事がたくさんありました。子供たちも、習い事の発表会等に参加し成果を披露したのではないのでしょうか。声や身体を使って表現することの素晴らしさに、たくさん出会ったので紹介します。

12月1日、「音でことばで ひろがる・つながる・ひびきあう」という趣旨の「第13回 和歌山市子ども暗唱大会」に3年生7人と5年生2人の有志で参加しました。

本校は初めての参加でしたが、舞台上で堂々と発表できました。小学校は10校161人が「群読」の部に参加し、声を合わせてそれぞれの題材を発表しました。また、個人の部でも好きな名文の一節を表現しました。

いろいろな表現の仕方、いろいろな声があって、響き方も伝わり方も違うところが、素敵だなと思いました。来年は、校内でもっと参加者を増やして、宮北バージョンを作っていきたいです。



12月2日は、PTA合唱祭に参加しました。「鞠と殿様」を歌いました。私は音をはずさないように必死でしたが、指揮の高瀬先生が和やかに盛り上げてくださったので、PTAの参加者のみなさんと一緒に、本当に楽しく、気持ちよく歌うことができました！来年はみなさんも一緒に。

12月3日には、能楽師の小林慶三先生をお迎えして、2年生と6年生が「能」に挑戦しました。2年生の授業を少し覗くと、「老松」を暗譜して、堂々と謳いあげていました。なかなかの迫力でした。この時期に日本の伝統芸能に触れて、心を耕すことは大切ですね。



あっという間に12月(師走)

気持ちが焦ってきて、何かに追われているようなそんな気分になりますが、一呼吸おいて、じっくり取り組むようにと自分に言い聞かせつつ過ごしています。

何よりも、子供たちの安全が第一です。気を引き締めて、安心・安全な学校を持続できるように、子供たちを見守っていきます。